



## 【特別支援学校のセンター的機能】 ～しろがね分校による地域支援～

しろがね分校では専門アドバイザーが中心となり、前橋市・玉村町・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者に来校していただいたりして、発達気になる子供達についての継続的な支援を行っています。

### 7月30日現在の相談依頼の件数(外部支援)

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	特別支援 学校	その他	計
件数	74件	64件	30件	3件	15件	186件

(その他は保護者や関係機関からの相談)

7月28日 渋川市内の小学校で講演会実施  
7月29日 渋川市内の中学校で講演会実施

専門アドバイザーの仕事を紹介します。

今回は保育園の年少児A君(3歳)について、ご紹介します。



A君についての最初の相談は昨年春にありました。今回で3回目の相談でしたが、毎回、目を見張るほどの成長があり、ついに、今回はクラスをのぞいてみて、どこにいるか分からないほどA君が成長していました。

そのA君が成長したのは、問題行動が目立っていた時の相談(1回目)だと思います。成長があまりに嬉しかったので、その時の支援方法について紹介します。

最初の相談は昨年5月で、A君2歳3ヶ月。  
相談内容は、

- ①何か止められたり、指示されると怒って後ろにのけ反り、頭突きをする。  
洋服が着られない時に、ちょっと手伝っても怒る。「手を洗おう」「トイレに行こう」という言葉掛けも怒る。
- ②遊びが終われない。「終わり」と声を掛けると、頭突きをする。
- ③集団生活の中で、食事で自分の好きな物が食べ終わってしまうと、離席し、



動き回る。だっこしたり、食べ物を触って遊びながら座ってられることもある。食べられるものが限られているので、偏食指導をしたい。

というものでした。観察した時にも、ズボンをはく時に、うまくはけなくて怒ったり、給食のときにも白いご飯と味噌汁の汁をおかわりしてたくさん食べたA君は離席をして他児にちょっかいを出し始めました。そこで、給食では2つのメニューしか食べないA君に一口でもいいから他のものも食べる経験をして欲しいと思って先生方が近づくと、大泣きして暴れるという状況でした。

そこで、支援方法を考えるときに必要なのが、困った行動も100%必ず起こる訳でなく、良いときもあります。それを使うことと、支援を大いにしよよい行動習慣を体験させながら、徐々に支援を減らすという方法の2つを使いました。

具体的な支援方法としては

- ①については「～しよう」と個別に言葉をかけずに、A君がひっかかりそうなところで、教師が黙って支援をして、A君には一人でできたように感じさせて褒める。実際、声をかけないで着るものを見せたときには、行動できてました。
- ②は遊びの終了時間になったら、カウントダウンして、手をつないで教室まで「追いかっこ」のように走って連れて戻ってくる。実際に、手をつなぐとそれほど嫌がらないで戻ってくる場面がありました。
- ③の偏食指導はA君のこだわりが強いので後回しにして、集団生活のルールや教師の指示に従う経験を身につけることにした。まずは白いご飯と味噌汁を少しだけ盛ってあげ、食べ終わったA君にはおかわりのテーブルのところに来て「ちょうだい」と言わせることにしました。食欲のあるA君はすぐに身につき、テーブルの前に引いたラインの上に立ち、5～6回は「ちょうだい」とお椀を差し出していました。次は「ありがとう」の指導。「ありがとう」と言いかけたら、おかわりのご飯を渡しました。「椅子を入れてからきて」「落としたからティッシュ持ってきて」の指示を意図的に入れるようにする。

1ヶ月後には、給食では並んでご飯をもらいに行き、食べ終わったら椅子に座って絵本を読むという習慣を身につけていました。着替えや遊び終了の時に泣くこともありませんでした。

保育士の先生方の熱心さもA君に届いたのでですね。

気になるお子さんがいましたら、ぜひ、お声がけください。

群馬県立渡良瀬養護学校しろがね分校

専門アドバイザー 尾岸純子

電話 027-268-6111



